

[概要]

本研究の目的は、高等学校必修科目「地理総合」において国際理解・国際協力分野に着目し、地図・GIS 活用の実態を踏まえ、同分野の活用において教員に必要とされる技能や知識、それらを補うための手段について考察することである。富山県内高等学校の地理教員を対象にアンケート調査および聞き取り調査を実施した結果、地図・GIS は自然地理・防災分野においては活用されている一方、国際理解・国際協力分野においては活用度が低いことが判明した。その要因として内容の抽象性、授業時数と教材研究時間の制約、ICT 環境や通信環境といった課題が複合して起こっており、国際理解・国際協力分野では地理的知識と社会的課題を結び付けにくく、地図・GIS を扱いづらいということが明らかとなった。また、これらの課題を TPACK の視点から分析すると、技術知識と教育の知識や教科内容に関する知識を統合する TPK や TCK の不足が活用に至らない一因であることも示唆された。

これらを踏まえ、同分野における地図・GIS の活用を増やしていくためには、TPACK 的視点からの教員研修の充実や地図資料を活用した教材の蓄積、地歴公民科での横のつながりを増やすことが求められる。

キーワード：地理総合，GIS，国際理解，国際協力，TPACK